

## 視点(1887)

(生活様式と消費者心理編)

### I Saw All America (その272) !!

— アメリカのライフスタイルの多様化の要因 —

SCの出現背景は「1人当たりのGDPが5,000~10,000ドルの中所得層・中産階級層社会の到来」と「車の世帯保有率が30~50%の車社会の到来」と「田舎から都会、都会から郊外への人口大移動によるサバーバン社会の到来」の3つの要因です。

しかし、SCの多様化(元々は1つのDNAのSCが、今やアメリカではこれもSCなのという“SCの種”の多様化)が著しく高いレベルで進行しています。

実はアメリカにおけるSCの顕著な多様化は「アメリカ人のライフスタイルの多様化」に起因しています(六車流：流通・マーケティング理論)。

アメリカには多種多様なSCが存在しており、1つのマーケットの中には日本の3倍のSC(100万人のマーケットの中にアメリカはRSCが5ヶ所、日本は1.6ヶ所)が存在し、互いに切磋琢磨しながら競存共栄しています。

自然界の動物の進化は、動物の食べものや住む場や敵に対応する武器の3つのことから起こり、それによって動物は多様化します。

マダガスカルの猿の多様化(1つのDNAの猿が“80種”に多様化)やコスタリカの動物の進化(南北のアメリカ大陸が陸続きになり中央アメリカのコスタリカは南北アメリカの動物の混ざり合う場となり、かつ気候や地形の変形により条件の異なる“場”が20を超えている)やコウモリが114の“種”に分かれていることは、まさに動物たちのライフスタイルの変化により自らの“種”の拡大(多様化)が起こったわけです。

実は、アメリカはこの自然界のマダガスカルやコスタリカ現象が、アメリカの近代の人間社会の中で起こったのです。それゆえに、アメリカは他国と比較してライフスタイルの多様化という進化が顕著に起こった由縁です。その要因は次の通りです。

#### <アメリカの歴史背景によって起こった要因>

- ①宗主国であるヨーロッパ(主としてイギリス)の生活習慣とアメリカの200~300年間の開拓時代の生活習慣の融合によるライフスタイルの多様化
- ②白人の生活習慣と非白人(黒人、ヒスパニック、アジア人等)の生活習慣の融合によるライフスタイルの多様化
- ③開拓時代における女性が少ない社会が起因する女性の自立性と男女平等社会の先進性の生活習慣によるライフスタイルの多様化

#### <アメリカの近代経済社会の背景によって起こった要因>

- ①高度な資本主義の発展による高所得層・富裕層の生活習慣と、低所得層・貧困層の生活習慣の融合によるライフスタイルの多様化
- ②ファミリー主義と子供尊重主義の生活習慣によるライフスタイルの多様化
- ③マイホーム(郊外での住宅生活)とマイカー(何をしても車での移動)の生活習慣によるライフスタイルの多様化

以上のように、「今は当たり前になっているライフスタイル」が、アメリカは世界の国々よりも、かなり早い時期(先進性)から行われており、さらに世界よりかなり高いレベル(高次元)で行われていたのです。このライフスタイルの多様化はSCの量的発展のみならず、SCの質的発展、すなわちSCの多様化(性格の異なるSCが1つのマーケットの中に多数成立している)を招き、人々の生活の質を高め、またライフスタイルの変化へと波及しました。私達日本人は、戦後、アメリカ式のライフスタイルに馴染んできて、日本本来の江戸時代から培われた日本式のライフスタイルは希薄化していきました。

今、2016年からのニューモダン消費(モノ離れした後のニュー消費)において、日本式のライフスタイルが新しい時代のスタイルとして「クールジャパン」という概念で復活しています。

今までのアメリカ式のライフスタイルは、モダン消費時代のライフスタイルであり、日本はこのアメリカ式のライフスタイルを享受して1960年~1990年代まで発展してきました。日米ともに、モノ離れ(アメリカは1970年、日本は1988年)が起こった後のニューモダン消費は、新しい**第3世代のライフスタイル**(第1世代はアメリカ式ライフスタイルの前の世代、第2世代はアメリカ式ライフスタイル)が必要となり、現在はアメリカが一步進んだ形で実施されていますが、21世紀は日本の得意分野であるクールジャパンのライフスタイルが重要視されます。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup><sub>6</sub>

代表 六車秀之